

かわさき区の宝物シート

宝物No.	ひえ だいじんじゃ
23-5	日枝大神社



エリア	田島地区	シーズン	通年
	小田・浅田	日時	5月

目的	<input checked="" type="checkbox"/> 観る <input type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する <input type="checkbox"/> 食べる <input type="checkbox"/> その他
----	--

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり <input checked="" type="checkbox"/> イベント・祭り <input type="checkbox"/> 味づくり <input checked="" type="checkbox"/> にぎわい <input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの <input type="checkbox"/> 港めぐり <input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの <input type="checkbox"/> 人物
------	--

所在地	神奈川県川崎市川崎区小田2-14-7
-----	--------------------

問い合わせ	日枝大神社 社務所
-------	-----------

TEL	044-333-1046
-----	--------------

FAX	044-333-5082
-----	--------------

E-mail	
--------	--

URL	http://www.hiedaijinja.or.jp/ (日枝大神社 社務所)
-----	--

交通	JR川崎新町駅より徒歩10分 JR川崎駅東口よりバスで15分「小田一丁目」 または「京町」下車
----	---



基礎情報

■天暦2年(948)、京都比叡山坂本山王権現(日吉大社)より勧請した神社であり、大昔からの比叡山の地主神とされている大山昨命(おおやまくいのみこと)が祀られている。享保19年(1734)に氏子が奉納した水屋の手水鉢が現存しており、その歴史の古さを伝えている。

■毎年5月の第3土曜日・日曜日に行われる例大祭は、川崎市内で最初に行われる夏祭りである。200店舗近い出店が並び、境内や付近の道路は終日賑わう。

由来・エピソード

■日枝大神社は当初、小田村の西隅に社殿があったが、いつの頃から村の中央現今の所に遷座(うつ)されたとされている。江戸幕府の頃には御朱印地拾石(社寺に朱印状をもって下付した土地)があり、隣村下新田村(現在浅田町)、菅沢村(現在鶴見区菅沢町)等の総鎮守(氏神さま)であった。

■当時の例大祭の月の申の日には、神輿渡御の際に村内旧家十二人がいずれも馬に乗り、警固供奉(警戒しお供をする)して村内(三ヶ村)を巡幸した。その行列は古風を極めたものといわれた。明治6年12月に村社になった際、社号が日枝大神社に改められた。

■農作物が成長する5月の雨は百姓にとって重要な恵みの雨であり、ほかの地方では日照りが続くと雨乞祭をすところも見られた。しかし小田村では昔から5月の例大祭が行われる頃に雨が降ったと記録され、2日間のうち1日はたとえわずかでも雨が降ることが多く、両日天気にも恵まれた時でも、その前後の日は大雨となることが多かったという。そのため、小田村では雨乞祭りの必要がなく、これも山王さんのお陰と喜ばれたとされる。なお、例大祭は今でも、雨天になる確率が高い祭りとして知られている。

補足・その他

--

関連シート

(8-5) 圓能院
(23-3) 下新田